

平成 30 年度「みんなの幸せづくりをすすめる研究会」第 1 回オープンミーティング 報告書（平成 30 年 9 月 20 日）

場所	茨城県青少年会館 大会議室		参加人数	93 名		
参加社協	【22 社協】 水戸市 土浦市 古河市 石岡市 常総市 常陸太田市 北茨城市 笠間市 牛久市 ひたちなか市 鹿嶋市 守谷市 常陸大宮市 那珂市 筑西市 かすみがうら市 つくばみらい市 小美玉市 茨城町 大子町 五霞町 境町					
研究課題・テーマ	（今回の発表事例が選ばれた経緯） 国のモデル事業である「地域力強化推進事業」及び「多機関の協働による包括的支援体制構築事業」を実施し、多様化・複雑化する福祉ニーズに対し地域全体で支える全世代型の地域包括ケアシステムの構築をめざす栃木市の事例を学ぶとともに、県内で行われている地域づくり実践の視点や成果等を共有し、今後のさらなる取り組みと展開に向けた課題やポイントを学ぶことを目的に選定した。					
発表内容	☆地域共生社会の実現に向けた実践報告 地域共生社会の実現に向けた栃木市のまちづくりの実践について、厚生労働省のモデル事業を活用するきっかけやねらい、これから目指す方向性やそれぞれへの期待など、行政・社協それぞれの立場から報告いただきました。 登壇者：栃木市役所 保健福祉部 地域包括ケア推進課 課長 首長 正博 氏 栃木市役所 保健福祉部 地域包括ケア推進課 主幹 黒川 幸咲 氏 （福）栃木市社会福祉協議会 岩舟支所 地域福祉係兼在宅福祉係 主査 小島 宏陽 氏 コーディネーター：地域福祉アドバイザー 外岡 仁 氏 ☆地域共生社会の実現に向けて…みんなで討論会（立体シンポジウム） 国のモデル事業も、昨年度までで全国 8 5 か所で取り組まれており、実施に至った経緯、実施体制、どのような地域づくりを目指しているかなど展開も様々です。 ここでは、茨城県内でモデル事業に取り組む 2 か所を加え、これからの地域づくりについて、みなさんで考えを深めていくため、会場の参加者の登壇可能な参加型プログラムで展開しました。 登壇者：栃木市役所 保健福祉部 地域包括ケア推進課 課長 首長 正博 氏 栃木市役所 保健福祉部 地域包括ケア推進課 主幹 黒川 幸咲 氏 （福）栃木市社会福祉協議会 岩舟支所 地域福祉係兼在宅福祉係 主査 小島 宏陽 氏 （福）東海村社会福祉協議会 生活支援課地域福祉推進係 係長 大内 智弘 氏 （福）土浦市社会福祉協議会 常務理事 瀬尾 洋一 氏 コーディネーター：地域福祉アドバイザー 長谷川 幸介 氏				ポ ヌ ー ル 会 議 参 加 者 コ メ ン ト	★ <u>笠間市社会福祉協議会</u> 富田氏 途中からの参加でしたが、地域共生社会の実現に向けて社協が取り組むべき方向性や組織体制についても理解が深まった。また社協や行政（福祉部以外も含め）がより一層連携しながら、地域づくりを推進していかなければならないと再認識した。 ★ <u>笠間市地域包括支援センター</u> 矢口氏 社協の進むべき方向を再確認ができた研修だった。 今後も、様々な情報を県内社協の皆さんと共有し、行政や関係機関と連携して、地域住民と一緒により良い地域づくりをしていきたいと思う。 ★ <u>牛久市社会福祉協議会</u> 中村氏 地域共生社会の実現に向け新たな事業が展開する中、福祉のまちづくりを使命とする社協として、今まで地域住民と進めてきた地域づくりを基盤に、自らが先頭に立ち取り組むことが必要であると実感した。 ★ <u>常陸大宮市社会福祉協議会</u> 大久保氏 複合課題の増加により、単独機関で対応出来ないことは、社協職員でなくとも容易に理解出来る。しかしながら、わかってはいても現実には多機関連携が出来ていない場合が多いのではないだろうか。特に行政との連携が住民からの相談解決以前の問題になっている社協は、少なくないと思う。 今の状況を、社協にとって『ピンチはチャンス』と捉え、『覚悟』を持って事にあたれば、社協がクローズアップされることが期待出来る。特に自分の所属する社協が、いわゆるダメ社協であればあるほど本気で取り組むべきである。 行政とのパートナーシップは、相手（担当者）に自分をわかってもらうことから始まると思う。自分を曝け出さなければ相手は近づいてこない。事業の必要性・重要性を理解してもらうよう、失敗を恐れずにチャレンジすることが最も大切なことだと思う。 ★ <u>那珂市社会福祉協議会</u> 浅野氏 今回のオープンミーティングを通じて、改めて社協の立ち位置を考えさせられた。「誰のために」「誰と共に」「何」をするのか、客観的に自分の社協を見つめ直し、戦略を練っていく必要があると思う。「前を向けば追い風、後ろを向けば向かい風」、自分の社協にとって今の世の流れが追い風になるようにしていければと思う。 ★ <u>五霞町社会福祉協議会</u> 金谷氏 今まで行ってきた事業などを見直すこと（強み・弱み）、地域の実情を知ることが職員間で共有すること。そのうえで、「地域には社協がある」ことを住民に知っていただくことが必要ではないかと思った。小さな町で資源は少ないからこそできることはあるはず！と考え、多職種連携で「町づくり」を進めていきたいと思った。 ★ <u>五霞町社会福祉協議会</u> 高原氏 社協が地域住民にとってどういう価値があるのか、検証が必要だと考えさせられた。 その際に必要な視点を学ぶことができたと思います。他社協の先輩方からも多くの話を聴くことができて勉強になった。 ★ <u>五霞町社会福祉協議会</u> 倉持氏 今回の研修を通して、社協の置かれている状況や地域共生社会の実現に向けた実践についてモデルケースを基にして理解することができた。 これまでに地域で培ってきたことと、新たに生み出さなければならない価値や資源とを両輪にして、これからの社協の在り方について検証と創造が必要であると感じた。
ポ ヌ ー ル 会 議 参 加 者 コ メ ン ト	★ <u>水戸市社会福祉協議会</u> 埴氏 この事業の取り組みを通して、社協に対して警鐘を鳴らしてくれたように思った。 この事業にどう取り組むかで、社協の存在意義を示せるかどうかということだと思う。 参加した社協職員も真摯に前を向いて、この事業に取り組んでいくという意欲、決意を持ったことと思う。また、地域で様々なニーズを持つ方々からの視点を取り入れると、さらに具体性を持った事業の展開が、もう少し見えてくるのではとも感じた。 ★ <u>石岡市社会福祉協議会</u> 関町氏 「行政と社協が横一線の共通理解を持った上で住民に働きかけをすることが大事！！」「事業の達成度（実績・評価）は高く持たない」とても印象に残った。 事業（制度）を成功させるには職員の負担はとても大きなものになるため、覚悟が必要であるし、担当者以外からアイデアが出ることもあり、社協全員で一丸となることが大切だと感じた。 ★ <u>常陸太田市社協</u> 多賀谷氏・菊池氏 「問題意識を共有する」「共通理解を持つ仲間を作る」「お互いの役割と強みを理解する」「協働して企画する」「連携できるしくみをつくる」「実働組織をつくる」「まちづくり部門と連携する」が必要だと感じた。 つなぐしくみをつくることや、社協内のチームワークも必要ですが、基本は人と人。わがごとにして人をつなぐスキルが必要だと思う。				ア ド バ イ ザ ー コ メ ン ト	★ <u>長谷川アドバイザー</u> 社協のプライドが不可欠。特に対行政との関りでは、内部が一致できる「社協の意味」内容が重要だと思う。卑屈になってはいけないと感じる。地域共生社会を担ってきた重要な柱を、創り上げることが社協そのものだと思う。こういうオープンな会議をもう少しすすめたい。 ★ <u>外岡アドバイザー</u> 今回のオープンミィーティングは栃木市役所の包括担当課をはじめ主幹、市社協の職員を招きミィーティングで、他県の事業の進捗状況、取り組みなどの情報を得たことは、大変勉強になったと思う。 「井の中の蛙」では、これからはなかなかやっていけないと感じられたのではないかな。

平成 30 年度「みんなの幸せづくりをすすめる研究会」第 1 回オープンミーティング（平成 30 年 9 月 20 日@茨城県青少年会館） かわら版



登壇者同士顔が見える討論会を行いました。

県内市町村 22 社協ほか
県、市町村役場、地域包括
支援センター、民生委員な
どに参加いただきました

栃木市役所、栃木市社会福祉協議会の事例報告では、
行政と社協の連携の取れたパートナーシップについてのお話が伺えました。立体ポジウムでは、茨城県内でも、
モデル事業に取り組んでいる土浦市社協、東海村社協の地域づくりについての取り組みについて事例報告、行政と社協の関係、10 年後の社協についてなど討論がされました。

第 1 回は、93 名が
参加されました！

栃木市役所、栃木市社会福祉協議会
の取り組み報告



第 2 回オープンミーティング（申し込み制の自由参加）
2 月（予定）